

盛岡市まちづくり市民討議会

『未来のもりおかミーティング』

～創りだそう 私たちのまち～

市 民 提 言 書
実 施 報 告 書

2013年12月

盛岡市まちづくり市民討議会実行委員会

総合計画部会



盛岡市まちづくり市民討議会

『未来のもりおかミーティング』

～創りだそう 私たちのまち～

市民提言書 実施報告書



2013年12月

盛岡市まちづくり市民討議会実行委員会

総合計画部会

■ 目次

主催者あいさつ	1
序章 市民討議会の概要	2
1 実施に至った背景と開催目的	2
2 市民討議会の開催に当たって	2
3 開催概要	3
4 参加者の募り方と参加人数	4
5 討議の方法, 発表と投票	5
第1章 市民からの提言	8
1 テーマ1 中心市街地をもっと元気にするためには?	8
2 テーマ2 子育てしやすいまち・子育てしたくなるまちとは?	10
3 テーマ3 老いても若々しくいきいきと暮らせるまちとは?	12
4 テーマ4 あなたの盛岡自慢, 盛岡の魅力, あなたならどう売り出しますか?	14
第2章 市民討議会の実施内容	16
1 テーマ1 中心市街地をもっと元気にするためには?	16
2 テーマ2 子育てしやすいまち・子育てしたくなるまちとは?	22
3 テーマ3 老いても若々しくいきいきと暮らせるまちとは?	28
4 テーマ4 あなたの盛岡自慢, 盛岡の魅力, あなたならどう売り出しますか?	34
参考資料	40
1 青年会議所(JC)の活動	40
2 市民討議会とは	42
3 参加者アンケート結果	44
4 その他	51

主催者あいさつ

本年10月に開催いたしました盛岡市まちづくり市民討議会「未来のもりおかミーティング～創りだそう 私たちのまち～」に、多くの市民の皆様にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

本事業は、盛岡青年会議所と盛岡市が協働し、盛岡市まちづくり市民討議会実行委員会を組織し、無作為に抽出した3,000名の市民の皆様に参加依頼通知を出すというこれまでにない市民参加手法を用いて、幅広い市民の方々にまちづくりについて、討議していただきました。

参加者の皆様の2日間にわたる熱心な討議の内容につきましては、盛岡市のまちづくりへの提言として、市民提言書・実施報告書として取りまとめさせていただきました。

本提言書・報告書は、市民からの提言として、盛岡市長に提出させていただきます。

この提言が、新しい盛岡市総合計画へ反映され、盛岡のまちづくりに貢献されることを心より願っております。

この討議会の経験は、市民の方々のみならず、我々実行委員会メンバーにとっても貴重な経験となりました。盛岡のまちづくりへの市民参加の新たな手法として、この討議会が継続的かつ発展的に生かされていくものと確信しております。

最後に、参加いただいた42名の市民の皆様をはじめ、講師やスタッフとして運営をお手伝いいただきました皆様に、多くのお力と御配慮を賜りましたことを、改めて感謝申し上げます。

2013年12月

盛岡市まちづくり市民討議会実行委員会 委員長

(一般社団法人盛岡青年会議所 理事長)

浦田 学

序章 市民討議会の概要

序章では、本市民討議会の開催趣旨や概要、討議の進め方などを記載しています。

1 実施に至った背景と開催目的

現在、少子高齢化や人口減少の急速な進行による人口構成の変化、自然災害をはじめとする様々なリスクに対する危機管理意識やエネルギー・環境に対する市民意識の高まりなどにより、私たち市民の暮らしは大きく変化しています。

このような中、私たちの暮らしを豊かにするために、盛岡市の地域特性や資源を最大限に生かしながら、市民と行政が協働・連携してまちづくりを考えなければなりません。

盛岡市まちづくり市民討議会実行委員会では、現在、盛岡市で策定を進めている新しい盛岡市総合計画に市民の皆様の声を活かすため、住民基本台帳を利用した無作為抽出により選ばれた市民による「市民討議会」という新しい手法を用いて、20歳から80歳代までの幅広い市民に呼びかけるとともに、まちの課題や問題点、その解決の方法を討議し、盛岡市のまちづくりに対する「市民提言」をまとめることを目的として開催することとしました。

2 市民討議会の開催に当たって

本市民討議会は盛岡青年会議所と盛岡市が共同で実行委員会を組織しました。テーマ選定から当日の運営方法まで、実行委員会で議論を尽くして開催しました。

この市民討議会は無作為抽出によって選ばれた市民である参加者の意見を聞く場であるため、参加者が主体的に意見を述べられるよう、運営面で配慮するよう取り組みました。

参加者が十分に討議できるよう、盛岡市の現状や取組について、資料提供するとともに、有識者から有用な情報提供を行いました。

この報告書の取りまとめに当たっては、討議によって出された提案について、参加者全員で投票を行い主たる提案となったものをまとめています。また、出された主たる提言のみならず、各グループで出されている個別の意見も大切にまとめています。

また、本討議会に参加できなかった市民の皆様にも、関心を持っていただけるよう努めています。

3 開催概要

他の市町村で開催される市民討議会の多くが土曜日、日曜日と連続した2日間での開催としていますが、本市民討議会は平日に勤めがある方でも参加しやすいよう、1日目と2日目を約2週間空けて土曜日と日曜日に開催しました。

市民討議会は、市民が参加しやすいように、会議の名称を「未来のもりおかミーティング ～創りだそう 私たちのまち～」と題し、テーマ設定に当たっては、まちづくりについての市民の関心の高いテーマを選定し、初日は、「テーマ1 中心市街地をもっと元気にするためには?」、「テーマ2 子育てしやすいまち・子育てしたくなるまちとは?」を、2日目は、「テーマ3 老いても若々しくいきいきと暮らせるまちとは?」、「テーマ4 あなたの盛岡自慢、盛岡の魅力、あなたならどう売り出しますか?」を話し合いました。

討議に当たっては、市の資料による情報提供のほか、各分野で活動されている有識者を招き情報提供を行いました。

○10月14日(月・祝)【1日目】

場所：プラザおでって 大会議室

9:30~10:00	受付
10:00~10:15	開会式・説明
10:15~10:45	「テーマ1 中心市街地をもっと元気にするためには?」 【情報提供】小説家、「街もりおか」編集長、 もりおか復興支援センター長 斎藤 純 様
10:45~12:50	テーマ1 話し合い・発表・投票
12:50~13:40	昼食
13:40~14:15	「テーマ2 子育てしやすいまち・子育てしたくなるまちとは?」 【情報提供】NPOいわて子育てネット副理事長・事務局長 両川 いずみ 様
14:15~16:15	テーマ2 話し合い・発表・投票
16:15~16:30	閉会式・事務連絡

○10月26(土)【2日目】 場所：盛岡市アイスアリーナ 第1・第2会議室

9:30~10:00	受付
10:00~10:15	開会式・説明
10:15~10:45	「テーマ3 老いても若々しくいきいきと暮らせるまちとは？」 【情報提供】元盛岡市保健推進員 長岡 明子 様
10:45~12:50	テーマ3話し合い・発表・投票
12:50~13:40	昼食
13:40~14:10	「テーマ4 あなたの盛岡自慢、盛岡の魅力、あなたならどう売り出しますか？」 【情報提供】(株)ベアレン醸造所専務取締役 嵐田 洋一 様
14:10~16:15	テーマ2話し合い・発表・投票
16:15~16:30	閉会式・事務連絡

4 参加者の募り方と参加人数

様々な年代の方々から「生の声」をお聞きするために、市の住民基本台帳を基に20歳以上の市民の皆様の中から3,000人の方々を無作為に抽出し、参加申込書及び案内チラシを同封しました。

募集人数40人に対して、75名の方々から参加申込みをいただき、応募多数であったことから抽選により50名（当日までのキャンセルを2割程度と想定）の方を選出し抽選結果を通知しました。

抽選方法は、参加者の世代が偏らないように、参加者申込みのあった方を20歳代から80歳代までを年代ごとに分類した上で、くじによる抽選を行いました。結果、男性23名、女性27名を選出しました。

仕事等によるキャンセルもあり、最終的に1日目は42名、2日目は39名の方にご参加いただきました。

●参加人数

年代	1日目	2日目
20歳代	2名	2名
30歳代	10名	8名
40歳代	5名	5名
50歳代	7名	6名
60歳代	8名	8名
70歳代	8名	8名
80歳代	2名	2名
計	42名	39名

5 討議の方法，発表と投票

(1) 情報提供

はじめに，有識者から情報提供を行います。また，市で作成した基礎資料を配布します。

(2) グループ討議

次にグループ討議を行います。討議は8つのグループ（1グループは概ね5名）に分かれて行います。テーマごとにグループ替えを行います。グループ分けは，世代比と男女比を考慮し事前に実行委員会が決定しました。

グループ討議の仕方は，参加者が各自，意見を付せん書き，話し合いをしながら類似する意見を区分していき，区分ごとにタイトルを付け，最終的には代表意見として3つを，残したい意見として1つを話し合い，グループ内の意見集約を図ります。

グループ討議は，以下に示す話し合いのルールと役割分担を設定して行いました。

●話し合いのルール

①批判しない

良い意見が出にくくなるので，他の人の意見の批判や否定はしない。

②質より量

必ず1人1つ以上の意見を出し，より多くのアイデアを集める。

③自由で柔軟な発想

笑われるかもしれないと思ったアイデアが，実は良いアイデアだったりするので，恥ずかしがらずにどんどん意見を出す。

④他の人の意見に便乗

他の人の意見に自分のアイデアを加えて新たな発見をしたり，連想して意見を膨らませる。

⑤発言は簡潔に

時間に限りがあるので，グループメンバーの時間を使わないように要点を簡潔に話す。

●参加者の中での役割分担

- ・進行係（グループ内の話し合いの司会進行を行う）各グループ1名
- ・発表係（まとめた意見の発表を行う）各グループ1名

●グループ討議の様子

▼各人の解決アイデアを付せんに記入



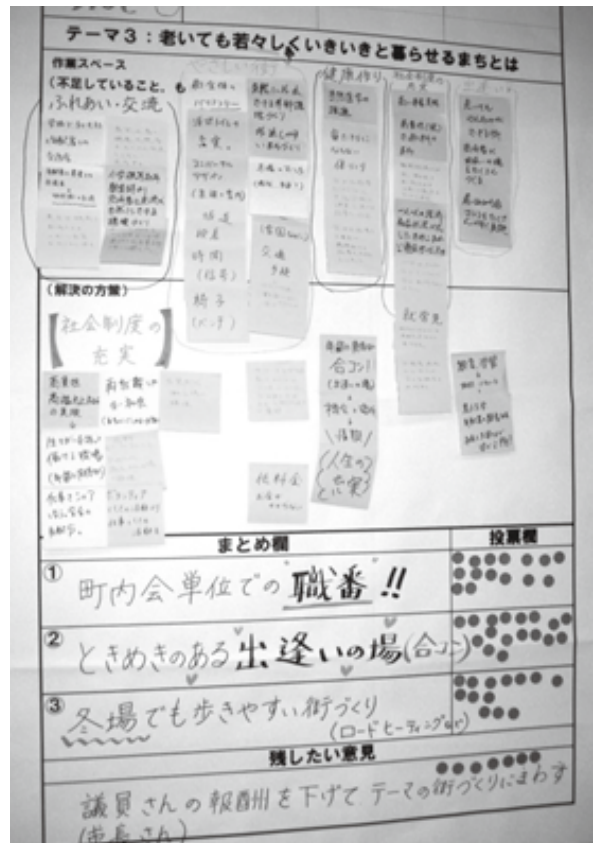
▼付せんに記入したアイデアを発表



▼類似するアイデアをまとめグルーピング



▼討議の結果を3つまとめ欄に記入



(3) 討議結果の発表

グループごとに数分程度で、取りまとめた意見を中心に討議結果を発表します。

▼出されたアイデアを紹介



▼どのような討議がなされたかも含め発表



(4) 討議結果への投票

参加者全員が、それぞれ、各グループから出された意見を比較し、優れていると思う意見に投票します。投票はシールで行い、1人5枚まで投票できるものとしています。1つの意見に複数枚貼ることもできます。

▼それぞれが、各グループの模造紙を見て優れていると思う意見を決定し、シールを貼る



第1章 市民からの提言

この章では、参加者が討議を行った結果をもとに、賛同を多く得られている内容を中心に市民提言としてまとめています。

1 テーマ1 中心市街地をもっと元気にするためには？

テーマ1は、まちなか（中心市街地）の活性化について、現状の問題点や課題をあげ、その解決の方策を話し合いました。

話し合いの結果、多くの方が課題と感じていたことは

- ・交通・道路の利便性の向上（駐車場、公共交通機関、自転車）
- ・交流の場の創出（若者が興味を持つ、子連れやお年寄りにやさしい）
- ・商店街の魅力アップ（空きテナント活用、行きたくなるお店）
- ・盛岡城跡公園の活用

ということでした。

それらの課題を解決するための方策としては、

① おもてなしの心を育てる	21票
② ひと休みできる場所の提供	18票
③ 駅前ターミナルと交通整備	15票
④ 中心市街地に分かりやすい集まれる場所を作る	14票
⑤ 車と共生できる街づくり	14票

という意見に票が多く集まりましたので、以下の内容を含めて市民からの提言とします。

- ① 「おもてなしの心を育てる」は、小さな頃からおもてなしの心を育てるという提案です。

商店街の賑わいを生み出すためには、人をもてなす優しい心が大切である。笑顔があるところには人が集まる。みんながおもてなしの心を持てるよう小さな頃から育てる必要があるという意見が出されました。

- ② 「ひと休みできる場所の提供」は、一休みできる場所を街の外や店の中につくるという提案です。

だれでも、まちなかで買物を楽しめるよう、外やお店の中に一休みできる場所としてベンチを設置してはどうかという意見が出されました。

そのほか、買物客にやさしい店づくりとしてユニバーサルデザインを取り入れてはどうかという意見もありました。

③ 「駅前ターミナルと交通整備」は、盛岡駅周辺のバスの充実、地下道表示の充実など交通整備を行うという提案です。

盛岡駅は、多くの観光客を迎えるところであるにもかかわらず、バスや地下道など、わかりにくので、表示を充実させるなど、整備が必要であるという意見が出されました。

このほか、交通に関しては、⑤の提案もありますが、空き地の利用や駐車場や駐輪場の整備など、多くのグループから提案がありました。

④ 「中心市街地に分かりやすい集まれる場所を作る」は、中心市街地に人が集まるよう、わかりやすく集まれる場所をつくるという提案です。

具体的には、駐車場や駐輪場を整備するなどの意見が出されました。交通整備という点では、③や⑤の提案とも関連しますし、集まれる場所という点では、②の提案とも関連しています。

「わかりやすい」という点で、ほかのグループから「目的別の地図をつくる」や「食や歴史など目的別の盛岡の案内人を置く」などといった提案も出されました。

⑤ 「車と共生できる街づくり」は、交通機関の利便性を高めるために、カーシェアや無料駐車場など、車と共生するまちづくりをするという提案です。

カーシェア（乗り合い）やまちなかと郊外店舗を結ぶバスの運行などのアイデアも出されました。交通整備や利便性の向上については、上記③、④の提案のほか、多くのグループから意見が出されました。

中心市街地を元気にするには、人が集まれるよう、交通整備や利便性の向上が必要だということから、交通や駐車場など土地利用に関する提案や意見が多く出されました。また、だれでも中心市街地で楽しめるよう、やさしい対応、まちづくりが必要であるという意見も多く出されました。

このほか、「世代間交流のできるイベントの実施」や「盛岡城跡の活用」など、中心市街地が元気になるための提言がなされています。その1つ1つが大切な提言です。さらに、詳しい内容については、次章をご覧ください。



2 テーマ2 子育てしやすいまち・子育てしたくなるまちとは？

テーマ2は、子育てをテーマに、現状の問題点や課題をあげ、その解決の方策を話し合いました。

話し合いの結果、多くの方が課題と感じていたことは

- ・ 育児環境の充実（保育所、保育託児サービス）
- ・ 仕事と育児の両立（職場の理解、家族の協力、保育託児サービス）
- ・ 子どもの遊び場の確保（公園、イベント）
- ・ 社会で子育てという意識（三世代、近所付き合い、世代間交流）
- ・ 子どもの教育の充実（地域コミュニティ、学校教育）
- ・ 子ども連れにやさしいまちづくり

ということでした。

それらの課題を解決するための方策としては、

- | | |
|---|-----|
| ① 働く人のニーズに合った保育施設の充実
(時間外・土日・休日の対応) | 20票 |
| ② 学童保育の充実(幼稚園・保育所の支援, 学童支援) | 15票 |
| ③ 子どもOK!を視覚化するステッカー, マークを掲示して
心理的なハードルを下げる | 15票 |
| ④ 保育所の増設(老人ホームとの併設, 子育てが終わった世代の方を活用する) | 13票 |
| ⑤ 子育て中の母親のスキルアップ!! | 13票 |

という意見に票が多く集まりましたので、以下の内容を含めて市民からの提言とします。

- ① 「働く人のニーズに合った保育施設の充実(時間外・土日・休日の対応)」は、曜日や時間など、働く人のニーズに合った保育サービスが受けられるよう、施設、制度の充実を図るという提案です。

現在、雇用形態や雇用時間が多様化し、深夜や土日でも働く母親が増えているが、それにあった保育サービスがなく、使いにくいという意見が出されました。

このほか、24時間保育の実施など、同様に母親が働きやすい制度の充実の提案もありました。

- ② 「学童保育の充実(幼稚園・保育所の支援, 学童支援)」は、学童保育で学習支援を行うという提案です。

塾に通わせることのできない家庭もあるので、学童保育で寺子屋のような学習支援を行ってはどうかという意見や、幼稚園と保育所でも教育格差があるので、それを解消するような支援があればという意見も出されました。

- ③ 「子ども OK!を視覚化するステッカー, マークを掲示して心理的なハードルを下げる」は、子連れでもお店や施設を利用しやすいよう、母親の心理的なハードルを下げるという提案です。

子連れだとなかなかお店にも入りづらく、周りの目が気になるという母親が、気軽に利用でき、また、周りにも子連れを理解してもらえるよう、お店などにステッカーを貼るなど利用しやすい環境づくりが必要ではないかという意見が出されました。

- ④「保育所の増設(老人ホームとの併設、子育てが終わった世代の方を活用する)」は、増設する保育所を老人ホームと併設するという提案です。

高齢者と子どもとのふれあいは、双方に良い影響を与えるのではないかと、また、子育てを終わったおばあさんたちの協力も得られるのではないかという意見が出ました。

このほか、地域での世代間交流や、経験やノウハウを持っている高齢者の人材活用などの提案もありました。

- ⑤「子育て中の母親のスキルアップ!!」は、専業主婦などが、子育てが終わった後に社会に復帰できるよう、地域単位で勉強会をするという提案です。

子育てを地域の関わりの観点から、資格取得などの勉強会を地域単位で行えばよいのではないかという意見が出されました。その他、同じ観点から、地域で子どもを育てる、見守るという意見に基づく提案もありました。

多くのグループが子育ては社会全体でしていくもの、「子どもは社会の宝」という考えから、子育てしやすい環境とは、子育て中の母親や子どもを理解し、子育てしやすいようフォローする方策を検討していました。特に、子どもと高齢者の交流という観点では、④のほか、多くのグループで提案され、「高齢者の協力はボランティアではなく、地域通貨など対価のあるものがよいのではないか。」といった意見も出ました。詳細については次章をご覧ください。



3 テーマ3 老いても若々しくいきいきと暮らせるまちとは？

テーマ3は、「老いても若々しくいきいきと暮らすために」、現在、不足していることやものをあげ、その解決の方策を話し合いました。

話し合いの結果、不足している、必要だと感じていたことは

- ・ 集まるきっかけ（動機づけ、場所、参加のしやすさ）
- ・ 生きがいづくり（知識経験を生かすもの）
- ・ 世代間交流（子ども、若者と高齢者の交流の機会）
- ・ 高齢者が出かけやすいまちづくり（ユニバーサルデザイン、交通機関）
- ・ 情報提供（わかりやすい情報発信、パソコンの活用）
- ・ 健康づくり（運動、食、医療）

ということでした。

それらの課題を解決するための方策としては、

① ときめきのある 出逢いの場（合コン）	17票
② 手続の簡素化	16票
③ 町内会単位での「職番」！！	15票
④ 起業しやすい環境づくり！	13票
⑤ 冬場でも歩きやすい街づくり	13票

という意見に票が多く集まりましたので、以下の内容を含めて市民からの提言とします。

- ① 「ときめきのある 出逢いの場（合コン）」は、恋ができるよう中高年の出会いの場を設けるという提案です。

生きていてよかったと思える、心の満足度を高めるためには、恋ができるような出会い場が必要であり、交流の場があることによって、いつまでもいきいきといることができるし、また商店街などまちも元気になるのではないかという意見が出されました。

このほか、交流という観点で、子どもや若者と高齢者の世代間交流や近所など地域での交流をテーマとした提案が多く出されました。

- ② 「手続の簡素化」は、高齢者が集まりやすいよう、施設利用の手続を簡素化するという提案です。

集まる場所（施設）があるのに、施設利用に関する情報がなかったり、利用の手続が複雑で利用しにくいということから、このような提案がありました。

このほかの提案においても、施設のほか、サークル活動や様々な情報の内容や発信、提供方法について、充実させる必要があるという意見が出されました。

- ③ 「町内会単位での「職番」！！」は、町内会単位できめ細やかな仕事の相談にのり、近所の仕事を働く意欲のある人に提供する場を設けるという提案です。

老いても若々しくいるためには、経済的な自立が必要であり、ボランティアではなく、仕事として対価があることで、動機付けになるし、また自分の特技を生かし、認

められることで心も満たされるのではないかと。たくさんいる高齢者の人材をどう活用するかが重要であるという意見が出されました。

次の④の提案やほかの提案でも、高齢者の知識経験を生かし、世の中に貢献し交流していく場が必要であり、生きがいややりがいを持つためには、ボランティアではなく、対価があったほうがよいという意見が出されました。

- ④ 「起業しやすい環境づくり！」は、高齢者がこれまでの知識経験を生かし、起業することができる環境をつくるという提案です。

ボランティアではなく、起業し利益を得ることにより、責任も生じることから、やりがいがあり、生きがいとなるのではないかと意見が出されました。

具体的に、環境づくりの一つとして、空き店舗や空き教室の活用などもあげられました。これらの施設の活用については、世代間交流イベントなど、ほかの提案でもあげられました。

- ⑤ 「冬場でも歩きやすい街づくり」は、冬場でも元気に外出できるよう交通や道路を整備するという提案です。

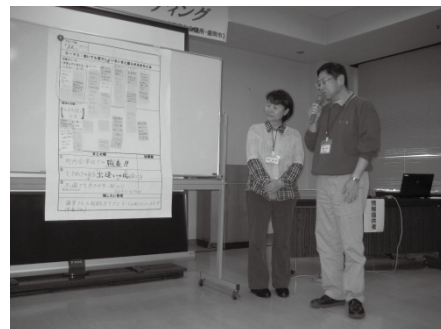
高齢者が足元の悪い冬でも安心して外出できるようロードヒーティングなどの整備をしてはどうかという意見が出されました。

この提案のほか、バリアフリーや交通手段（バス・道路）の整備、充実などについては、複数の提案がありました。

多くのグループで、高齢者がいきいきと若々しく暮らすためには、人とのふれあいや交流が必要であり、そのためには、どのようなことが必要かという観点で検討していました。

人が集まるには、まず、集まる「きっかけ」が必要であることから、「わかりやすい情報提供」や「経験を生かし働くという動機付け」の提案、この討議会のように「市で集まるきっかけをつくる」という提案もありました。また、集まる場所（施設）の利用や集まる場所へ行くまでの交通手段などについても提案がありました。交流という観点では、「出会いの場」や「世代間交流」、「近所づきあい」など多くの提案がありました。

これらのほか、健康づくりなど自己管理の提案なども出されました。詳細については次章をご覧ください。



4 テーマ4 あなたの盛岡自慢、盛岡の魅力、あなたならどう売り出しますか？

テーマ4は、盛岡の魅力や自慢できることをあげ、それを売り出す方策を話し合いました。

話し合いの結果、盛岡の魅力や自慢できることとして、

- ・自然（岩手山、姫神山、北上川、四季を感じられる。温泉、鮭、白鳥）
- ・景観（城下町、町家）
- ・都市と自然の調和
- ・食（三大麺、おいしい水、豆腐）
- ・文化・歴史（工芸品、偉人、映画観通り）
- ・人情（おもてなしの心）

などがあげられました。また、住んでいる人たちも盛岡の良さをわかっていない、気づいていないのではないかという意見もありました。

盛岡の魅力売り出す方策としては、

- | | |
|--|-----|
| ① 日本のパリを目指す | 20票 |
| ② 民放全国版でコマーシャルを放送してもりおかの知名度を上げる | 19票 |
| ③ あいさつ(おはよがんす、おぼんでがんす、おありがとうございます)を市内商店で使う | 15票 |
| ④ 「盛岡の達人」を増やす | 11票 |
| ⑤ 中津川でビアガーデン | 10票 |

という意見に票が多く集まりましたので、以下の内容を含めて市民からの提言とします。

- ① 「日本のパリを目指す」は、パリのような一貫性のあるまちづくりをするという提案です。

盛岡の魅力は、食や自然など様々あるが、総じて見ると文化であり、同じように文化のあるまちパリのようなまちを目指し、どこからでも岩手山が見えるまちづくりや公園の整備に取り組んではどうかという意見が出されました。

- ② 「民放全国版でコマーシャルを放送してもりおかの知名度を上げる」は、まず盛岡を知ってもらうために、多くの人が見る民放全国版でコマーシャルを放送するという提案です。

盛岡の魅力はたくさんあるが、全国的に知られていないものも多い。まずは、盛岡の魅力である自然など、コマーシャルを使い多くの人に伝えられないかという意見が出されました。このほか、同じく、キャッチコピーをつけ、コマーシャルで流す、市のホームページを活用し、盛岡の風景、様子を流すなど、視覚的に訴える広報宣伝の提案がありました。また、広報宣伝は、行政だけで行うのではなく、企業等に協力してもらったらどうかという意見も出されました。

- ③ 「あいさつ(おはよがんす、おぼんでがんす、おありがとうございます)を市内商店で使う」は、観光客に盛岡の良さであるやさしさを感じてもらうため、市内商店で盛岡弁を使うという提案です。

盛岡弁の話し方は、やわらかく、やさしい感じがするので、良さが伝わりやすいのではという意見が出されました。

このほか、同様に、市役所でも盛岡弁を使う、観光案内を盛岡弁で行うなどの提案がありました。

- ④「盛岡の達人を増やす」は、観光客に盛岡の良さを案内するため、盛岡の歴史や由来のわかる「盛岡の達人」を増やすという提案です。

また、地元の人しか知らない穴場スポットまで情報提供するなど、きめ細やかな案内ができればよいのではないかという意見も出されました。観光のための案内人については、多くのグループから提案されました。

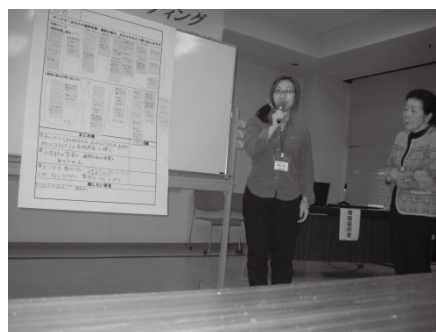
このほか、市外にいる盛岡出身者が一人ひとり観光大使になり、日本中、世界中で盛岡の良さを伝えていくという提案もありました。

- ⑤「中津川でビアガーデン」については、盛岡の魅力でもある中津川で、市民みんなが季節を感じながら楽しめるよう、ビアガーデンをするという提案です。

盛岡の魅力は、自然と都市のバランスであり、まちなかに中津川というきれいな川があり、鮭や白鳥がくるなど季節も感じることができる。このような場所を使ってみんなが楽しめるイベントをしてはどうかという意見が出されました。中津川の活用としては、釣り宿や地産レストランをつくるという提案も出されました。

このほか、盛岡の良さを知るための教育として、「盛岡をテーマとした授業」、「小さなころから南部鉄器など工芸品に慣れ親しむ。」などの提案がありました。また、多くのグループから「三大麺などの食」と「ゆるキャラ」を使ったPRの提案がありました。

さらに、詳しい内容については、次章をご覧ください。



第2章 市民討議会の実施内容

1 テーマ1 中心市街地をもっと元気にするためには？

(1) 情報提供の概要

○盛岡市の中心市街地の現状（市資料提供）

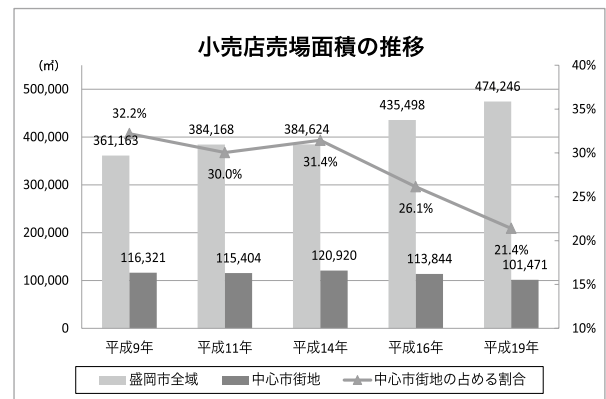
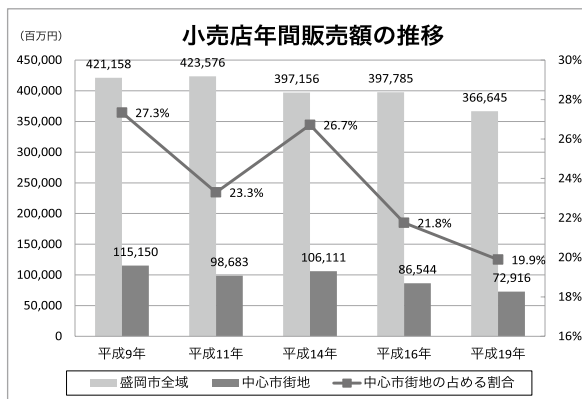
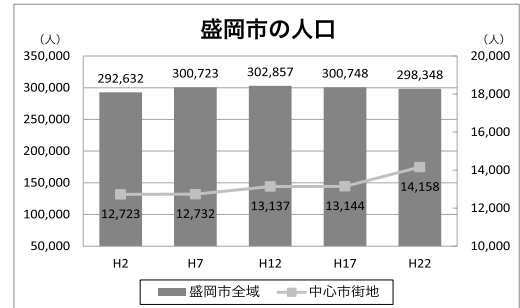
①人口

マンションの建設が継続しており、中心市街地の人口は増加傾向。

②産業

小売業（飲食店除く）の店舗数・年間販売額・売場面積の減少。事業所数・従業者数の減少。

中心市街地への依存度も低下。郊外への大型店進出が続き、影響が見られる。



③交通

中心市街地での歩行者・自転車通行量は下げ止まり。公共交通機関の利用は伸び悩み。

④都市機能

公共施設が集中しているが、一部機能は近接地区へ移転。医療・介護施設、教育施設が集中しているが、岩手医科大学附属病院が移転予定。マンションが集中しており、新設も続いている。地価は下落が続いている。

▼まちづくりについて説明する齋藤様

○情報提供者

小説家、「街もりおか」編集長、

もりおか復興支援センター長 齋藤 純 様

○情報提供内容

- ・人口減少の時代の到来

交流人口、観光客を増やしていくためには、自分たちのまちの財産、資産を点検することが必要。努力しないで得られた財産は見逃しがち。

- ・まちなかの交通

盛岡市はコンパクトシティであり、観光施設、官公庁、病院がまちの中心に残っている。これまで、「歩いて楽しむまち」を提案し進めてきた。また、盛岡市で「自転車を安全に使いたい」を進めてきた。東大通での青い自転車ゾーンはわかりやすく、安全性も高い。



盛岡には「LRTを走らせ隊」という市民活動がある。国内では富山市でまちなか居住を推進し、助成を行い、中心市街地に人を落とすことに成功。ヨーロッパでは公共交通機関に対する考えが異なり、公共交通機関に投資することは、道路整備をするのと同じことと考えている。

しかし、LRTは経費がかかるので、バスを充実した方がいい。できるものから実現していこうということが重要。

・僕はなぜ盛岡が好きか。

盛岡は文化のまちだから。文化は目に見えないのでやっかいだが、やはり文化という視点は必要。たとえば、建物はやはり文化である。大清水多賀もそうだが、建物は文化であり、お金に代えられない。文化という視点を忘れないでほしい。

・まちづくりはみんなで

まちづくりはいろいろな人の意見が入った方がよい。そこで商売をやっている人だけではダメ。まちに行く人、利用する人、通る人、観光客、住んでいる人など、いろいろな人の意見を聞くことが大切。

・まちなかの店

郊外型の店舗は機能であり、それ以上のことはない。まちなかの商店、レストラン、喫茶店、映画館、本屋は人の交流ができる。そこに文化が生まれる。文化が育まれる。文化が継承される。だからまちに商店は大事。

・なぜ中心市街地が必要か

文化を継承し、盛岡の歴史を残していくため。これがなくなると、盛岡のアイデンティティがなくなる。

○質疑応答

Q 仙台の友人などから盛岡はバスの排気ガスが臭いといわれる。環境の面で何か統計データはあるのか？

A 統計データがあるか分からないが、環境の面でいうと、LRTは排気ガスを出さないのがよい。東京などでは、電気バスが走っている。お金さえかければ、そういうこともできると思う。

(2) グループ討議結果

各グループで代表意見及び残したい意見としてまとめられた意見を、投票結果の多いものから順に示しています。

1位	おもてなしの心を育てる	21票
2位	ひと休みできる場所の提供	18票
3位	駅前ターミナルと交通整備	15票
4位	中心市街地に分かりやすい集まれる場所を作る	14票
4位	車と共生できる街づくり	14票
6位	盛岡城 復元！！	12票
7位	城跡に調和した施設の設置と利用	11票
7位	除雪とパトロール	11票
9位	盛岡弁記念日（その日だけは皆さん盛岡弁で）	10票
10位	でんでんむしの運行範囲を工夫する	9票
10位	充実したイベントの開催	9票

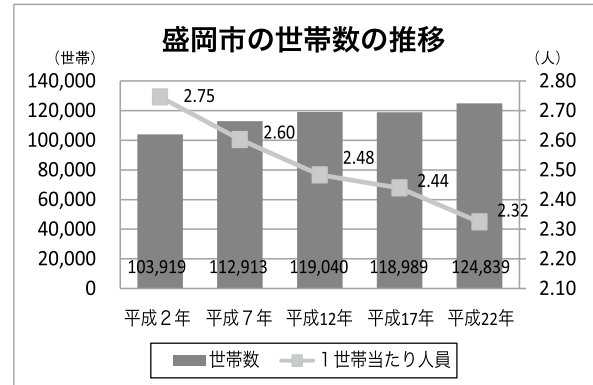
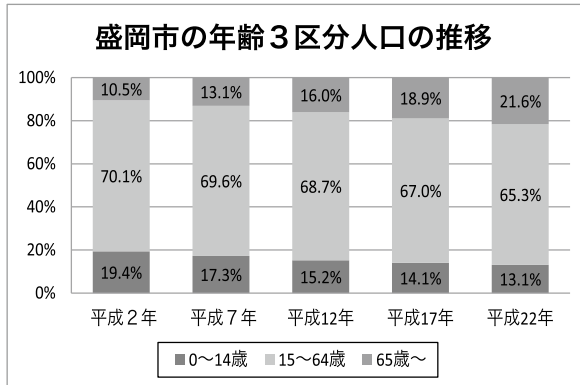
2 テーマ2 子育てしやすいまち・子育てしたくなるまちとは？

(1) 情報提供の概要

○盛岡市の子育てを取り巻く現状（市資料提供）

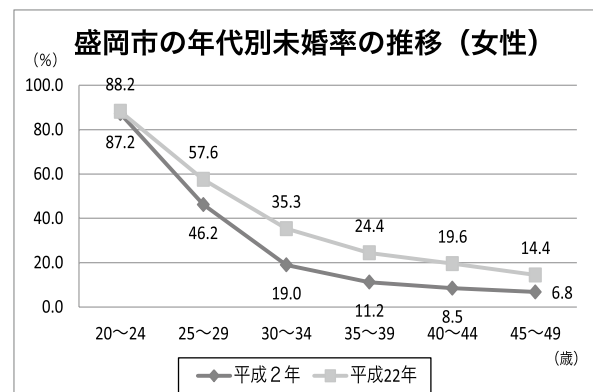
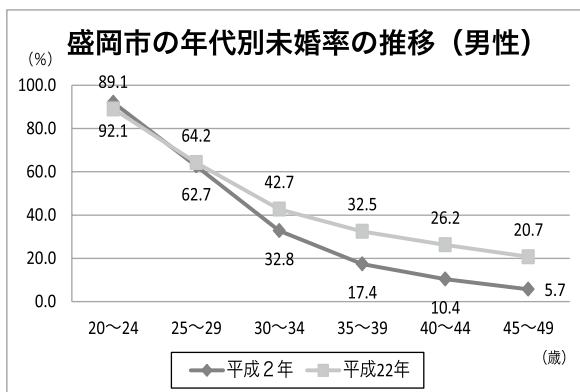
①少子高齢化・核家族化

年少人口の割合が減少し、老年人口が増加。1世帯当たりの人口が減少し、核家族化が進行。



②結婚の状況

未婚率は、男女共に上昇しており、特に男性では30代で、女性では20代後半から30代にかけてその傾向が顕著。



③女性の社会進出

30代女性の就業意識が高くなっており、子育て支援の充実が求められている。

○情報提供者

NPOいわて子育てネット

副理事長・事務局長 両川 いずみ 様

▼説明する両川様

○情報提供内容

・子育て支援をなぜやるのか。

子どもたちがちゃんと大人になるための土台作りのお手伝い。NPOを始めたころは、子育ては、子供がいないと関係ないという人もいたが、今では大事だと考える人が多くなった。

・まちづくり、社会づくりが視点の子育て支援

以前は、まちづくりはまちづくり、子育ては子育てでそれぞれ別々に取り組んでいたが、まちなかの活性化と子育て支援を絡めて、大通りに子どもの拠点となるつどいの広場「KOKKO」を設置することができた。



「KOKKO」では、イベントも行うが、そのねらいは、盛岡に愛着を持ってもらうことのほか、社会に向けて子育てに関心を持ってもらうことにある。

・子どもを育てる親の悩み

専業主婦は、孤独の中で子育てをしており、社会からおいていかれているような孤独感、焦る気持ちがあるため、「子育て相談できる人がほしい。」「たまには子育てから離れてリフレッシュしたい。」「夫に家にいてほしい。」といった望みを持っている。働きながら子育てをしている人の悩みは、「とにかく時間が足りない。」「疲れが取れない。」「職場の理解が足りない。」など、育休中の人の悩みは、「スムーズに職場に戻るか心配。」「復帰後の体力が心配。」などである。また、全体的に、昔と違い、今は子どもを一人で外に出しておける環境にないため、子どもの遊べる場所がほしいという声がある。

・子育て中のスキルアップ

子育て中のスキルアップは大事。研修会などを実施しているが、お母さんたちに自信をつけてもらうための社会に出る前のインキュベート機能を持ちたいと考えている。

・子どもの遊び場

外で遊ぶのが一番。まちなかでも自然を探して遊ぶということが重要。子どもにはいろいろな経験をさせなければならないと常に考えている。

・子どもの笑顔が盛岡の将来をつくる

子どもが健やかに育つ環境づくりが大人の役割である。子育ては個人だけのものではなく、社会全体で子育ての機運を高めていけなければならない。

○質疑応答

Q ママさんブラス(吹奏楽団)「ママピヨ隊」と連携する機会はあるのか。

A 私どものところで演奏してもらっている。子育て中のママとお互いに励ましあいながら子育て支援に取り組んでいる。

(2) グループ討議結果

各グループで代表意見及び残したい意見としてまとめられた意見を、投票結果の多いものから順に示しています。

1位	働く人のニーズに合った保育施設の充実(時間外・土日・休日の対応)	20票
2位	学童保育の充実(幼稚園・保育所の支援, 学童支援)	15票
2位	子どもOK!を視覚化するステッカー or マークを掲示して心理的なハードルを下げる	15票
4位	保育所の増設(老人ホームとの併設,子育てが終わった世代の方を活用する)	13票
4位	子育て中の母親のスキルアップ!!	13票
6位	子どもの遊び場を増やす	12票
7位	公園にトイレ(冬場も使える)を作り, おむつ替え台や子供用いすを作る	11票
7位	大人の責任(教育)	11票
9位	(福祉バスの様な)子育てバスを作り, 町内会ごとに公園・農業体験・自然ふれあい体験・老人ホームへ行ったりする	10票
9位	高齢者は宝の山! 手助けして頂く。対価として地域通貨の発行。地元消費で。人も物も行き交おう。	10票

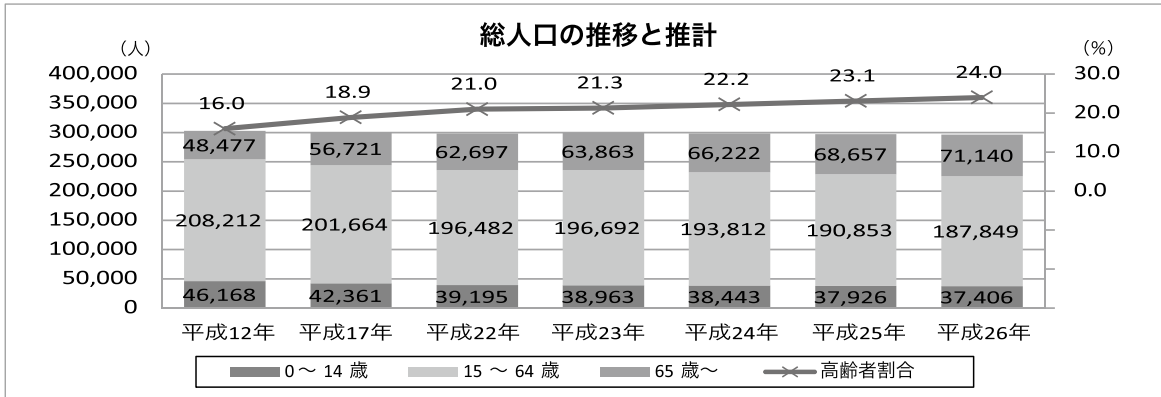
3 テーマ3 老いても若々しくいきいきと暮らせるまちとは？

(1) 情報提供の概要

○盛岡市の高齢者を取り巻く現状（市資料提供）

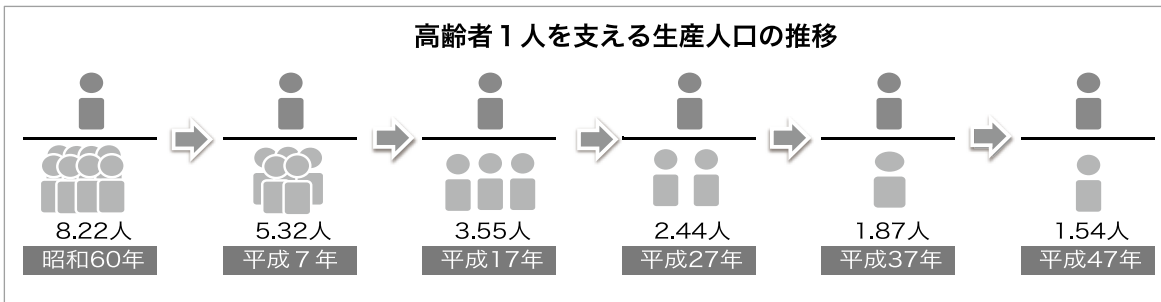
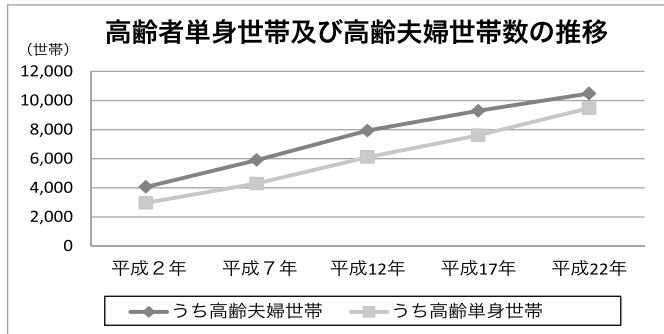
① 高齢化

年少人口の割合が減少し、老年人口が増加している。



盛岡市における65歳以上の高齢者がいる世帯数は一般世帯数の3割以上を占めている。

また、高齢者世帯数は増加しており、高齢者ひとり暮らしの世帯数・構成比も増加。



○情報提供者

元盛岡市保健推進員 長岡 明子 様

○情報提供内容

・日頃の心がけ

人生は再び生まれ変わることはないとの思いから、悔いのない人生を送りたいと思っている。

退職してからどう生きるか悩むでもなく、自然の流れで生きがいに巡り合えた。

・ヨガ

当時、町内会保健部の役員をやっていた。高齢化社会を迎えるに当たり、健康で自立できる人を増やすことが重要との考えから保健部で事業を実施したのがきっかけ。現在は、町内会の活動から自主運営に切り替えているが、続けられる要因として、

▼説明する長岡様



①場所が近いこと(高齢者が歩いていける町内の公民館)②会費が安いこと③役割があることなどがある。また、嚥下(えんげ)性肺炎で亡くなる高齢者が増えていることから、食道の筋力を強くするヨガの指導をお願いした。身体に筋力をつけて維持していくことは難しいことではない。

・卓球

身体を常に動かし、バランスを取り、集中力がなければならぬ。疲れすぎないよう、身体と相談しながら上達を目指している。

・コーラス

声を出さないと声も老化することに気が付いて始めた。ステージでは楽譜を見ないで歌う。暗記するので脳の活性化にもつながるし、歌はいろいろな感情を表現することができる。

・年を重ねることは面白い

心豊かで明るく年を重ねるためには、心のよりどころとなる、自分だけの世界を持つことが良い。自分を高めることができ、それさえあれば気持ちが満たされ、何にも代えられない心の財産となる。夢中になれる何かがあれば多少の無理は効くし、そのための時間を捻出しようとする。

○質疑応答

Q 食べ物について何か気を付けていることがあれば教えてほしい。

A 食塩の摂りすぎをセーブすること、良く咀嚼し満腹にしないこと、酢の物を摂るようにしたところ、高血圧だったが、血圧は正常になった。

Q 体力も落ちてきて、食べ物を食べられなくなってきた。家で妻と二人で住んでいるが、将来を考えると心配事が増えている。いいアドバイスを。

A 食事は2食だとのことだが、量は少なくとも3食きちんと摂った方がよい。お酒もタバコも適量を意識して暮らしていければと思う。

(2) グループ討議結果

各グループで代表意見としてまとめられた意見を、投票結果の多いものから順に示しています。

1位	ときめきのある 出逢いの場(合コン)	17票
2位	手続の簡素化	16票
3位	町内会単位での「職番」!!	15票
4位	起業しやすい環境づくり!	13票
4位	冬場でも歩きやすい街づくり	13票
6位	施設の改良 学校の空き教室を使いデイサービス	11票
7位	世代間交流のためのイベント企画	10票
8位	市で集まるきっかけを作る(場所・企画・内容)	9票
9位	高齢者の経験を活かし長く続けられること	8票
9位	情報発信の工夫	8票
9位	広報誌の改良	8票

4 テーマ4 あなたの盛岡自慢、盛岡の魅力、あなたならどう売り出しますか？

(1) 情報提供の概要

○これからも「選ばれるまち」を目指して（市資料提供）

①取り巻く環境の変化

- ア 少子高齢化・人口減少
- イ 地方分権の進展と市民参画の広がり
- ウ 都市間競争の激化

人口構成の変化など、暮らしを取り巻く変化に対応しまちの活力を維持・向上させていくため、都市の魅力を外に発信する「シティプロモーション(シティセールス)」や、自らの町に対して抱く愛着、誇り、自負心(シビックプライド)を醸成する施策を打ち出している。

②盛岡ブランドの推進

③盛岡の魅力～ランキング～

「くらしと環境に関する世論調査」(2005年時事通信社)で2年連続「住みやすさ」全国1位。

「市区町村の魅力度ランキング」(2013年ブランド総合研究所)で74位。(1,000団体中)



○情報提供者

(株)ベアレン醸造所専務取締役 嵐田 洋一 様

▼説明する嵐田様

○情報提供内容

・都市機能と自然

まちなかにきれいな川が流れている。都市機能と自然のバランスが取れていることは素晴らしい。

・東京と地方都市の違い

違いは突き詰めていくと人の多さに尽きる。人もまちも一つ一つ突き詰めて見ていくと変わらないが、都市機能が凝縮されているのが東京であり、いいところだけが取り出されて程よくコンパクトにまとまっているのが地方都市盛岡の良さである。

・盛岡の人の物事へのこだわり

盛岡の人は物事へのこだわりがあり、実直さを感じる。商売上で、「盛岡の人はいい人が多いでしょう」といわれるが、盛岡にいい人が集まっているということではなく、盛岡の人は物事にこだわり、いいものをきちっと見る目を持つということに長けているのだと思う。

・お酒の世界から見たこだわりのまち盛岡

盛岡は、日本有数のスコッチウィスキーの専門店があったり、地方都市でも素晴らしいワインが飲めるということで全国の中でも一目置かれている存在であったりと、お酒の世界から見ても、こだわりの姿勢が現れているまちである。

普通のビールの二倍くらいする価格ベアレンビールが受け入れられているのは、盛岡の人のいいものを見る目を持っている、いいものにはお金を払うという部分があるからだと思っている。

・実直さ

生粋の盛岡人であるベアレンの社長を見ても「寡黙で実直」で、ひたむきにまじめ



に与えられたことを一生懸命にやるところが、盛岡の人に共通するところと思っている。

・どう売り出すか

＜ハードではなくソフト＞

盛岡人の良さ。おもてなしの心，ハートの部分を訴えていきたい。

＜岩手は日本の北欧＞

上質なライフスタイル，エコ・環境に配慮した取組，自然との共生や過ごしやすさ，流行に左右されない，人間の本質的な上質な生き方など北欧のイメージである。

＜トライアルからファンへ＞

一度来て終わりということではなく，ファンになってもらうことが大切である。盛岡を売り出すにあたって，このキーワードは大切にしたい。ソフト面や内面の良さをPRして盛岡を好きになってもらう，特別なものがあるわけではないが，盛岡に来ると心地よい時間が過ごせるといった，盛岡のファンを増やしていけばよいと思う。

＜地方都市の良さはわかりやすさ＞

東京はカオスで人や店が多く，角を一つ曲がると何があるかわからない。そのわからなさが魅力の一つだが，疲れる。盛岡にはわかりやすいという安心感や心地良さがある。また，店や人，一つ一つは東京に引けを取らないので，わかりやすく発信し盛岡の全体のイメージをつくっていければ，盛岡の魅力はもっとたくさんの人に伝わるし，住んでいただいたり，来ていただいたり，ファンになっていただけるものと思う。

○質疑応答

Q 盛岡の地で起業しようと思った動機は何か。

A 社長が盛岡の人であったことや工場を立てる要素があったということはもちろんあるが，商売を通じて知り合えた人たちが心強い支えとなったこともあるし，物事にこだわる盛岡の人たちであれば，お土産品であった地ビールを普通の贅沢なビールとして受け入れてもらえると思ったということもある。

(2) グループ討議結果

各グループで代表意見としてまとめられた意見を，投票結果の多いものから順に示しています。

1位	日本のパリを目指す	20票
2位	民放全国版でコマーシャルを放送してもりおかの知名度を上げる	19票
3位	あいさつ（おはよがんす，おばんでがんす， おありがとうございます）を市内商店で使う	15票
4位	「盛岡の達人」を増やす	11票
5位	中津川でビアガーデン	10票
6位	特産品のPR方法の工夫（ラベルコンクール，ショウ）	9票
7位	食とゆるキャラでまちおこし	8票
7位	どこにも負けない「ゆるきゃら」	8票
7位	中津川に釣り宿を作り資料館に地産レストラン	8票
7位	盛岡はこだわり人が住む町と売出す	8票

グループ名						
もも						
テーマ4：あなたの盛岡自慢、盛岡の魅力、あなたならどう売りたしますか						
作業スペース (現状の課題・問題点)						
<p>鮭</p> <ul style="list-style-type: none"> 鮭が戻る町いつまで? さけがのぼる川 きれいな川 鮭と白鳥 	<p>有名入</p> <ul style="list-style-type: none"> 原歌と新渡戸稲造の活躍 歴代内閣を二入母している(原・末内) 	<p>食べ物</p> <ul style="list-style-type: none"> じゃや顔がうらもある(一般的) そばがおいしい(そば粉を売って売った) 食べ物も種類が多い 豆腐が美味しい(さる豆腐・よせ豆腐) 	<p>温泉</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内に温泉 温泉が近くに集しみ 	<p>景観</p> <ul style="list-style-type: none"> 岩手山(どこからでも見える) 工業地帯と自然との調和 城下町 町が2種化している。都市化、旧街並、保存に力を入れている 	<p>気候</p> <ul style="list-style-type: none"> やわらかい盛岡弁 人の温かさ 盛岡弁のやさしさ 難い話すべき 	<p>知名度</p> <ul style="list-style-type: none"> 文学の街 北東北の玄関口
(課題解決の方策)						
<p>PR</p> <ul style="list-style-type: none"> 川辺の整理をして鮭の止る様子を見ていただく 鮭の相上白鳥の飛来時期を告知する 	<p>PR</p> <ul style="list-style-type: none"> 時期を知らせる(鮭の上る時) 湧水の横にコップを置き、コップが溢れる(3箇所の人へ知らせる(除を委託)) 	<p>PR</p> <ul style="list-style-type: none"> あいさつを盛岡弁で作る 盛岡弁の店を作る 盛岡弁の店を作る 盛岡弁の店を作る 	<p>PR</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の有名人探し 小学校の学習に取り入れる 方言指導(小学校の学習とか) 	<p>PR</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページにUP(月替わりとか) ニュース以外CM等 クワコミ 案内人 ゆるキャラ作る 	<p>PR</p> <ul style="list-style-type: none"> 心をつかむ強いアピール、キャラクタフレーズ 良い物、良い所が言伝いされる 市民へ周知 年によって取り出せる(今年も自備する(新年映画とか)) 	<p>PR</p> <ul style="list-style-type: none"> おみやげ もりおかのみずっ商品品化 ロゴマークシール化
まとめ欄						
投票欄						
① あいさつ(おはよがんす、おぼんでがんす、おありがとござんした)を市内商店で使う	●●●●●●●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●●●●●●●	15			
② 小学校の学習に、盛岡を知る授業を取り入れる	●●●●●●●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●●●●●●●	7			
③ どこにも負けない「ゆるきやら」←(盛岡イケメン) ホームページ、CM、キャラクタコピー、案内人などを作る	●●●●●●●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●●●●●●●	8			
残したい意見						
「もりおかのみずっこ」商品化 ●●●●						

グループ名			
くり			
テーマ4：あなたの盛岡自慢、盛岡の魅力、あなたならどう売りたしますか			
作業スペース (現状の課題・問題点)			
<p>食べ物</p> <ul style="list-style-type: none"> 種類が豊富でおいしい 食べ物美味しい うす焼き、お好み焼きがうまい! 	<p>文化</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史や文化がある 歴史と文化がある 	<p>人情</p> <ul style="list-style-type: none"> 人情が細やか じやいばい!方言が楽しく聞こえる 	<p>自然</p> <ul style="list-style-type: none"> 冬が超寒い 温泉が近い この地は東北の地の利を活かして、活用度は高い
(課題解決の方策)			
<p>食べ物</p> <ul style="list-style-type: none"> 八幡平・岩手山の黒鮭、より一層広めてもらいたい 手作りを本場に体験できる 他県の観光地を参考にする(観光地を参考にする) 物さば山(スキー、登山)高直(ゴルフ)レジャー 	<p>食べ物</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光客の誘致を図る 紅葉祭りや温泉などのツアー 外人を呼び込むべきです 	<p>食べ物</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通・観光地四季を通してポーン、夏シーズ 宝の持ち腐れです 町の近くに温泉地をPRしよう 周辺の市町村とタイアップ、今はバラバラ 	<p>食べ物</p> <ul style="list-style-type: none"> 盛岡地産の鮭(本産の鮭か活用) 将楽関係業(入浴、少子化)の補助、接遇指導 観光地をセットで考える 資料館、歴史館の連携が機関の整備
まとめ欄			
投票欄			
① 県外客に接する人間のマナー接客態度の教育と改善	●●●●●●●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●●●●●●●	7
② 三大題以外の食べ物の発掘と宣伝(テレビ・ラジオ・新聞等)	●●●●●●●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●●●●●●●	6
③ 資料館 歴史館等を効率的に見学できる交通機関の整備	●●●●●●●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●●●●●●●	3
残したい意見			
知らない人に気安く話しかけるイメージづくり スノボ(湘南的な...?) ●●●●			

1 青年会議所（JC）の活動

日本全国約 700 の地域に約 40,000 人の『奉仕』『友情』『修練』という三信条のもと、率先して行動する仲間がいます。半世紀以上も前から、時代は変われど『明るい豊かな社会』の実現を目指す指導者たらんとする青年団体、それが青年会議所（JC）です。

メンバーは、国籍・人種・性別・職業・宗教の区別無く、20 歳から 40 歳までの志の高い青年経済人によって構成されております。

青年会議所の始まりは、1949 年『日本はこの先どうなるのだ』という、今以上に混沌とした戦後の時代背景の中、全国各地で志ある若者たちが立ち上がり、青年会議所運動は始まりました。そして 1951 年、全国各地で活動していた青年会議所が集まり日本青年会議所（日本 JC）を創設。以来、日本の青年会議所運動の枢軸として各地の青年会議所と連携し活動を展開しております。

日本青年会議所は国際青年会議所（JCI：Junior chamber International）の一員です。国際青年会議所は、世界 110 カ国以上、約 4,550 の地域に約 17 万人の会員を有し、OB は数百万人以上という組織です。（JCI ホームページより）

（1）盛岡青年会議所の概要

創立：1953 年（昭和 28 年）、2011 年（平成 23 年）一般社団法人に移行

会員数：126 名（平成 25 年 1 月 1 日現在）

一般社団法人盛岡青年会議所（以下、盛岡 JC）とは、『明るい豊かな社会』の実現を目指し、様々な活動を行う団体です。次世代のあるべき姿を見据え、市民・企業・行政・諸団体と連携しながら、主体性を持って活動を行っています。社会を様々な角度から多面的に捉え、社会発展のための運動を実施しています。

盛岡 JC は、次世代の担い手としての責任を自覚する青年（20 歳から 40 歳）が集う団体です。同じ理想と使命感を持つ青年が集い力を合わせることで、友情を育み、互いに切磋琢磨し、若さが持つ無限の可能性を引き出しあっています。日々の活動を通じて、社会・地域のリーダーや指導者としての能力を鍛えることも行っています。

（2）盛岡青年会議所の活動紹介

昨年度に実施した主な事業を紹介します。

●盛岡さんさ踊り

盛岡青年会議所は盛岡さんさ踊りに主催団体の一つとして深く関わっています。本番そして練習会を通して多くの市民の方とふれあい、盛岡さんさ踊りを盛り上げる一翼を担っております。

●わんぱく相撲盛岡場所

毎年数多くの小学生が岩手県内から集まり、両国国技館で行われる全国大会を目指して挑むわんぱく相撲盛岡場所も今年で 26 回目。盛岡青年会議所が行う青少年育成事業のひとつです。

●震災復興支援

震災後2日目には沿岸被災地に入り、全国各地から送られてくる物資の輸送や現場復旧の懸け橋となった。地元の青年経済人として、これからも東北復興の灯を絶えず灯し続ける。

●『もりおかVision 探求』～もりおかAction 宣言～

盛岡駅前フェザンで行われた『もりおかAction 宣言』では、市民の方々が盛岡の為に何かする心の醸成を行い、多くの市民の方々が盛岡の為にを行う事を宣言してくれました。

●市民協同参画事業 モリッオーカー ～人が輝くまち盛岡～

写真をヒントに同じ場所を探し当てるフォトラリー。市民と共に計画段階から行い、盛岡伝統文化や魅力を発見し、改めて盛岡に暮らし続けることに誇りを持ってもらう機会となりました。

●『絆』～さらなる復興にむけて 見せてやろう底力～

東日本大震災から1年、3月10日に中津川河川敷に鎮魂とさらなる復興にむけて“絆”の文字をキャンドルに灯すなど、復興にむけての発信事業を行いました。

●みらい便 ～10年後のわたしへの手紙～

盛岡市内小学生、約100名が今の自分を10年後に伝えることと10年後にどうなっているか考え手紙を書き2022年に自分に手紙が届くという事業です。

●国際交流 ～羅東国際青年商會との姉妹交流～

盛岡青年会議所では台湾の羅東国際青年商會と姉妹交流をしており今年で45年目を迎えます。また地域に住む外国の方々との国際文化交流を行い相互理解を深め、まちなりのあり方を考えていきます。

2 市民討議会とは

(1) 市民討議会とは

ドイツで住民自治の手法として行われているプラーヌクスツェレを日本風にアレンジし取り入れたもの。

これまで地域行政などで実施されてきた『市民の声を聞く仕組み』は、公募制やパブリックコメント、タウンミーティングなど、予め行政が選んだメンバーや設営で、比較的政治に積極的な人の意見を聞くものが主でした。

これに対して『市民討議会』とは、無作為に抽出した方々に招待状を出し、その中から参加の意思表示を頂いた方々にあるテーマに従って公正な情報提供を行った上で小グループに分かれてじっくりと討議していただきます。

そして、テーブルごとに意見を取りまとめ、そのテーブルごとの意見に対して全員で投票します。結果については、多数意見だけでなく、少数意見を含めた全ての意見と獲得票数を明記して広報する、という『新しい市民の声を聞く仕組み』です。

2005年に初めて東京都千代田区で社団法人盛岡青年会議所によって試行実施され、今では、青年会議所を中心に全国各地で開催されるようになりました。

(2) 市民討議会という手法について

ア 開催当日まで

市民討議会は、まず討議会に参加する候補者を、住民基本台帳などから無作為抽出する。そして、抽出されて住民の中から参加応諾した人により討議が行われます。

・無作為抽出

候補者を住民から無作為に抽出する。なお、20歳以上又は18歳以上を対象とする場合が多いです。

・出席要請

市民討議会の出席要請の通知を主催者に送付します。

・出席可否の返信

通知が送られた中で、参加できる住民が返信を送付します。(出席者の確定)

イ 開催当日

参加者が確定し、討議会当日を迎える。討議会は1日又は2日行われるのが一般的です。なお、参加者の利便性に配慮し、週末や休日を利用する場合が多い。

・グループ分け

当日出席した住民を5～6人のグループに分けます。また、グループ内で、進行係・発表係などの役割分担も決めます。また、その際に自己紹介が行われる場合も多いです。

・討議テーマの支持

主催者側から当日討議されるテーマが発表されます。出席要請時に通知する場合もあります。

・情報提供

専門家や行政などから、データなどを用いて客観的に現状や課題について説明が行われます。

- ・ アイデア記入
討議テーマに基づいた各人の解決アイデアを付せんにて記入します。時間を決めて、より多数のアイデアを記入するようにします。このアイデアを出す方法は、KJ法と呼ばれる方法を用いています。
- ・ グループピング
グループ全員のアイデアを提出し、似たようなものを分けます。
- ・ 討議
グループピングされたアイデアを元に、より良い課題解決に向けて、グループ内で討議を行います。
- ・ まとめ
討議の結果を3つくらいのアイデアに集約します。
- ・ 結論記入
まとめた内容を、模造紙などの大型の紙に記入します。記入したものは、見やすいように壁などに掲示します。
- ・ 発表
グループごとに記入された討議結果を発表します。
- ・ 投票
全ての発表を終えた後、他のグループも含め全ての結果の中から、自分が良いと思ったアイデアに各自が投票します。一般的に結論が記入された模造紙などの大型の紙にシールを貼る形式が多いです。

以上で討議の1サイクルが終了します。休憩時間をはさみ、メンバーをシャッフルして、また別の討議テーマに臨み、上記サイクルを繰り返します。

ウ 開催終了以降

討議結果を含め、結論を集約する「報告書」を作成します。
報告書を作成した後、行政への提出はもちろん、マスコミなどを通じて広く内容を発表します。

3 参加者アンケート結果

参加者数42名のうち、38名の方がアンケートを回答しました。

(1) 参加者について

■F1 あなたの性別をお答えください。

■F2 あなたの年齢をお答えください。

年代	男	女	計
20歳代	1名	1名	2名
30歳代	2名	6名	8名
40歳代	1名	4名	5名
50歳代	5名	1名	6名
60歳代	5名	3名	8名
70歳代以上	5名	4名	9名
計	19名	19名	38名

■F3 これまでに、市が策定する計画に対して意見を提出（パブリックコメント）したり、まちづくりに関するワークショップ（意見の取りまとめ）に参加されたことはありますか。

ある	ない	計
6名	32名	38名

(2) 参加の動機について

■問1 参加された動機についてお聞かせください。（複数回答可）

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1 市政全般に関心があったから | 2 テーマに関心があったから |
| 3 市民同士で意見交換をしてみたいと思ったから | 4 討議会の案内が届いたから |
| 5 出席に伴う謝礼金があったから | 6 託児所があったから |
| 7 その他（ _____ ） | 8 特に理由はない |

回答番号 年代	1	2	3	4	5	6	7	8
20歳代		1名			2名			
30歳代	2名	3名	3名	4名	3名		1名	
40歳代	4名	3名	2名	2名	2名	2名	1名	
50歳代	3名	3名	4名	2名	4名		1名	
60歳代	4名	5名	3名	4名	2名			
70歳代以上	2名	3名	2名	6名	1名		2名	1名
計	15名	18名	14名	18名	14名	2名	5名	1名

「7 その他」の自由記載内容

- ・このような機会は何かのご縁だと思ったので。（30代男性）
- ・市に少しでも役立ちたいため。（50代男性）
- ・街が淋しくなっていくから（70代女性）
- ・住んでいる町が活性化するように。町が元気になって欲しい。外側だけでなくまちの中にも予算が欲しい。（70代女性）

(3) 参加した感想について

■問2 ご自身のアイデアや意見は十分に出せましたか。

回答番号 年代	1 出せた	2 あまり出せ なかった	3 どちらでも ない
20 歳代		1 名	1 名
30 歳代	4 名	2 名	2 名
40 歳代	3 名	1 名	
50 歳代	3 名	1 名	2 名
60 歳代	5 名	2 名	1 名
70 歳代以上	7 名	1 名	
計	22 名	8 名	6 名

○「1 出せた」の自由記載内容

- ・付せんを使って、まず自分の意見を言う場があった。「まとめ」だけでなく「残したい意見」の欄があったため。(20 代男性)
- ・2日間という時間を大変有意義に過ごさせていただきました。日頃は思っただけでも一市民として意見を持ってどこにも出せずに消えてしまうものでしたが、このような機会を与えていただいたことにより、年代にかかわらず、街を人を良くしていきたいという思いは一緒だったことを感じ、盛岡市に対しての安心と自信を持たせていただきました。強く参加させて欲しいと願っての参加だったので、こういう機会を与えてもらったことに感謝し、また参加したいと思いました。ディベートがより良いものになって楽しかったです。益々のご活躍を期待しております。(30 代女性)
- ・参加者全員が盛岡市民であること以外枠がなかったので、自分の考えは話しやすかった。(30 代女性)
- ・他の皆さんと話しながらアイデアを考えるので、初め自分が考えたアイデアだけでなく、いろいろ聞いて、いろいろアイデアを出せました。(30 代女性)
- ・付箋にどんどん書き込み、ポイントを絞ったことで、たくさん話す時間ができたと思う。(40 代女性)
- ・皆さん関心のある方ばかりでしたので、意見を遠慮せずに伝えることができました。(40 代女性)
- ・模造紙へ付箋を貼る研修は以前から受けているので、違和感はなかった。(50 代男性)
- ・話しやすい雰囲気だった。(50 代男性)
- ・話しやすかった。(50 代女性)
- ・問題点、解決法、まとめをする中で一枚の付箋に書いて貼ること。それができた時点で十分に意見が出せたと思います。(60 代男性)
- ・グループの人たちによる評価、順位付等の結果は別にして、言いやすい雰囲気の中で発言できた。また、老いても若くても積極的に自立意識を持って様々な角度から参加する必要性を主張した。同時に市民全員が盛岡市、岩手県の PR マンとして盛り上げていきたい。(60 代男性)
- ・考え方を発表できてよかった。(70 代男性)

- ・色々な意見を聞き、自分なりにアイデアを作るきっかけになりました。次世代の人たちへバトンタッチできる思いで考えました。(70代男性)
- ・皆心配している事は同じなんだなと思いました。県民性で宣伝下手、派手に主張できない。(70代女性)
- ・①子どもの保育所の件(土日の保育)②公園の整備③イベントの件など、楽しい時間となった。30代の母の声を生で聞くことができたこと、最近足の捻挫の為街へ出ることはあまりなくなった。今回は130名の生徒からアンケートをしていただき会議に出席した。とてもいい企画と思います。今回は体の関係でタクシー利用し持出しになったが非常に有意義。(70代女性)

○「2 あまり出せなかった」の自由記載内容

- ・時間が足りなかったし、テーマが限定されていた。もっと幅広いテーマで議論したかった。また、自分と同世代の人の意見をもっと聞きたかった。(20代男性)
- ・勉強不足(30代女性)
- ・すぐに意見や考えが浮かぶような簡単な問題やテーマでなく若輩者の私にとっては(経験や勉強不足)難しい内容だったと思うところもありましたが、振り返ってみるといろいろな世代の方と話し合うことができ有意義でした。(30代女性)
- ・まだまだあります!!次も参加したいです!(40代女性)
- ・うまく説得力のある形にまとめることができなかった。(50代男性)
- ・テーマに対する討論時間が少ない。批判がないとイエスマン的な答えしか出ないのでは。(60代男性)
- ・もっと出したいが時間が足りなかった。(70代男性)

○「3 どちらでもない」の自由記載内容

- ・なかなか雰囲気にもまれて発言はできなかった。(20代女性)
- ・時間に制限があった為。2回目のほうが出せた気がする。(30代男性)
- ・周りの方々がとても良い意見が多く出たので、助けられたと思います。ただし、後半では皆さんひかえめでしたので、まとめるのが苦労しました。(30代男性)
- ・年配者の意見の押し出しが超強い。(50代男性)
- ・自分自身の考えがまとまらない部分があったため(50代男性)

■問3 会議の日数や時間について(長さ、参加のしやすさなど)、お気づきの点がありましたら、お聞かせください。(自由記入欄)

- ・アイーナなど駅の近くなどで開けばよかったと思う。(20代男性)
- ・少し時間が長く疲れてしまった。でも、スタッフの方が親切で参加しやすかった。(20代女性)
- ・全体の流れがわからなかったり、初対面の方とうちとける時間があるため、1回目の特に最初のテーマのときは短く感じた。職員の方がもう少し各テーブルで盛り上げてくれればもっとスムーズにいくし、ちょうど良い時間配分だと思う。(30代男性)
- ・1日は長いと思う部分がありましたが、これくらい時間をとらないと足りないのかとも思います。あとは、初めて会う方々が多いので、アイスブレイキングなど

もう少し打ち解けあう仕組み、時間などがほしいです。また、1回目おでって、2回目アイスアリーナの会場の部屋名も記載してほしいと思いました。(30代男性)

- ・時間が少し長いです。(30代女性)
- ・今回のような日程だと無理なく気軽に参加できるので、概ね良好だと思いました。(30代女性)
- ・ある程度、日程、時間の連絡が早く届いていたので、自分の都合も合わせやすかったのが良かったです。場所も一ヶ所でなかったのが平等な感じを受けました。(30代女性)
- ・参加しやすかった。一日は長いなと思ったが実際参加してみると意外に早い気がした。(30代女性)
- ・時間が長いので最初少し参加を迷いました。実際やるとちょうど良いです。(30代女性)
- ・間隔をあけて2日間というのは良いと思います。でも10時~16時30分というのは子育て中の主婦としては大変でした。朝早くから洗濯、掃除をすませたり、夕方帰宅してから家族全員分の食事を用意して、子どもに食べさせて……。どこのお宅でもそうなのでしょうけど……。男性にはこの大変さは絶対にわからないと思う！(30代女性)
- ・今回のやり方でいいと思う。(40代女性)
- ・丁度良いと思います。(40代女性)
- ・もう少し、年齢層に幅を持たせて欲しかった。(40代女性)
- ・テーマが多く、具体性にかける。(50代男性)
- ・今後どうなるか？次回は違うメンバーになるのか、これで終わりか分かればよいのでは。(50代男性)
- ・相手のお話を聞く時間が少ない感じがします。(50代男性)
- ・少し長い。(50代男性)
- ・時間が長かった。1日でも良かったような気がしました。でも2日目のほうがリラックスしてよかったのかしら・・・(50代女性)
- ・日数は1日でよいと思う。(60代男性)
- ・午後からの半日が良いのではないかと考えていましたが、討議に参加してみて、一日、午前と午後の2回あったほうが集中でき、今回の日程は妥当であると思います。(60代男性)
- ・日数、時間とも適度でした。スタッフの方々の気配りお疲れ様でした。(60代男性)
- ・日数がもう少しあっても良いと思います。(60代男性)
- ・1テーマに時間をもっと取るべきだと思います。(60代男性)
- ・良い長さだと思います。(60代女性)
- ・時間が短い。(60代女性)
- ・一日あたりの所要時間が長かった。日数を増やして1日の時間を短くしてほしい。(70代男性)
- ・やはり一日目よりは二日目の会議がはかどっている。スムーズに討論も進んだのではないか。(70代男性)
- ・丁度良かったと思います。関係者の皆様の心配りに感謝です。色々勉強になりました。(70代女性)

- ・日数や時間については適当であるがもう少しバスの本数の多い場所が良い。(70代女性)
- ・終了時間が遅いので前倒しで……。例) 9時〜とか(70代女性)

■問4 情報提供について(内容や量など)お気づきの点がありましたら、お聞かせください。

- ・情報提供の時間が長いと思った。また、多忙の中とは思いますが、各参加者の討論の中に情報提供者がもっと入ってきてよかったと思う。(20代男性)
- ・テーマ3の情報提供は、具体的な数字等がなく、少しわかりにくかった。情報をもっとあつたら話し合いやすかったかなと思う。(20代女性)
- ・もう少しパネルなどを活用して話をしてほしかった。テーマ1の斎藤氏の情報はぶっ飛んでいるけれどおもしろかった。(30代男性)
- ・貴重なお話を伺うことができてためになりました。(30代女性)
- ・参加したからこそ情報を知りえたことも多々ありました。貴重な話が聞けてよかったという実感と情報をもっと共有できたらいいなと感じました。(30代女性)
- ・紙資料があつたので良かった。(30代女性)
- ・長い。わかりにくい。(30代女性)
- ・もう少し専門家からの話をたくさん聞きたかった。市の用意した資料は参考になった。(40代女性)
- ・わかりやすくして良いと思います。(40代女性)
- ・情報提供は充分だとは思いますが時間が足りなすぎ。(40代女性)
- ・テーマ1のプレゼンターの話がわかりやすかった。(50代男性)
- ・盛岡の「こだわり」を前面に出してほしい。(50代男性)
- ・いろいろな活動をしている人たちがいて、頑張っているなー(50代男性)
- ・もう少し長くても良い。参加してもらいたかった。(50代男性)
- ・大きな問題でしたので、わかりやすい(小さい)ともっと話しやすかったのかも……(50代女性)
- ・テーマごとの情報提供者がいたほうが良いと思う。情報提供は後日書面でゆっくり提供したい。(60代男性)
- ・いろいろな分野の方々のご意見を聞かせていただき、大変ためになりました。(60代男性)
- ・大変参考になりました。(60代男性)
- ・参考になることがあり、大変良かったです。(60代男性)
- ・方言等人生の達人たちとご一緒でき、楽しい時間を過ごしました。(60代女性)
- ・充実した感じだ。(70代男性)
- ・講師の人の話す内容をパネル等使ってわかりやすく説明してもらいたかった。(70代男性)
- ・「元気で長生きしたい」と皆思っていることですが、自分でやり続けることができるか心配。体が効かなくなったらどうしよう。(70代女性)
- ・ベアレンの嶋田さんの様に他地域から盛岡に来て住んでいる方の情報提供はありがたい。(70代女性)
- ・市報の工夫。学校関係は教育委員会から多くの宝の山の退職者に是非発信していただくこと。学校利用、幼稚園の利用等急務に思う。生涯学習にも力を入れ、地

域に発信して欲しい。この企画に参加し深い思い(現実)になった。(70代女性)

■問5 その他、市民討議会を通じて感じたご意見等をご自由にお書きください。

- ・もっと若い人の参加を促すような方法を考えないと…パソコン筆記、パワーポイントを活用、各テーブルにPCを1台ずつ置いた方が討論の中のメモとか発表がしやすかったと思う。手書きではなかなか…(20代男性)
- ・もう少し若い方の意見を聞きたかった。(20代とか)(30代男性)
- ・もう少し若い人、学生なども交えても良いと思いました。比較的年齢が高かったこと。世代間交流の場でもあるかと。できれば定期的かつ継続的にこのイベントを続けて行ってほしいです。そしてこの場の意見がフィードバックできるような形であってほしいです。(30代男性)
- ・盛岡について考えるよい機会になりました。(30代女性)
- ・20代、30代男性の方がもっと出席されたらまた違った感じになるのかなとは思いますが。こういう機会がなければ、考えたり、興味を持たないようなテーマや問題もあって、普段からさまざまなことに興味を持って活動することが市の発展につながると思っていますので、これからも個人的に興味を持ってやっていければなと思います。ありがとうございました。(30代女性)
- ・せっかく集まった皆さんとのふれあいが何回か続けばよいなと思った。(30代女性)
- ・テーマが漠然としすぎていると思う。(30代女性)
- ・次回以降(開催があれば)また参加したいです!絶対参加したいです!どうしたら参加させてもらえますか?(30代女性)
- ・いろいろな方と意見を交換できたのは良かった。その人でなければ聞けないこと(子育て中のママ、高齢者の方など)も聞くことができた。あとはこの討議で出されたことが市政にどこまで影響できるか分からないが、市民の思っていることが伝わる良い機会だと思う。どんどん若者にも参加して、一緒にこれからの盛岡を良くしてほしいと思う。(40代女性)
- ・世代別で討議会後に今回のように世代全体世代別で、この内容で開いてもよいと思いました。(もっと具体的に問題が見えてくると思いました。)(40代女性)
- ・このような討議会で出された数々の意見が、今後どのように形になっていくのか折に触れ明らかにしてほしい。予算がついたからこのように企画しました、で終わらせないでください。(40代女性)
- ・今回の場をテストケースとして機会と回数、時間を増やしてほしい。30代以下の構成員を増やして欲しい。(50代男性)
- ・前回静かだった方が今回は自分の意見を話すようになった。裏面があるのだから表面に表記を。(50代男性)
- ・開催者側の進行の仕方に少々不手際を感じた。なかなかテーマ、結論の絞り方が難しいものもあった。(50代男性)
- ・意外と面白かったため、時間が短く感じました。皆さんの意見を多く聞くことができ、参考になりました。(50代男性)
- ・いろいろな方と知りあえよかった。フォローアップ研修をお願いしたい。(50代男性)
- ・市民の声を届けて欲しいです。(50代女性)

- ・盛岡市に住みながら、市のこれからという事を一度も考えた事はありませんでした。討議会の案内が届き、初めて市のこれからの考えることができました。大変貴重な時間を頂きありがとうございました。(60代男性)
- ・参加者意見等の集約結果、今後の見通し、対策等もお知らせいただければありがたいです。(60代男性)
- ・この様な市民討議会がもっと多数あってほしいです。(60代男性)
- ・少人数グループ単位なので意見が出しやすかった。(60代男性)
- ・何でもお話ができてよかったです。(60代女性)
- ・都会から遠い町等なので、PRが足りない。方言が分からない。(60代女性)
- ・自分の意見を思いっきり話すことができてすっきり！！話す場を与えてくださったことに感謝です。(60代女性)
- ・市の行政担当者に出席をしてもらいたい。(70代男性)
- ・盛岡を見直してよかった。(70代男性)
- ・参考にして実現して欲しい。(70代男性)
- ・年齢構成別討議会が良いと思う。大都市でこの討議会を開催してはどうか。(70代男性)
- ・盛岡市を魅力あるまちにするためにいろいろな課題があるのだと思いました。日常気づかなかったことが参考になりました。(70代男性)
- ・何を討議しても、人口減(高齢化)・大型店舗進出により個人商店の閉店、古い建物の駐車場化・少子化等で賑わいがなくなってきたのは防ぎようがない。それでも議論するのは希望を見出したいから。冬の寒さは大変。何とか克服したい。(70代女性)
- ・あと少し年齢のバランスが必要な様に思う。(70代女性)
- ・2日間ともとてもおもしろく楽しかった。(より多くの人意見、考えを聞けて)できるだけ多くの人にこういう機会を味わってほしいものです。(70代女性)

4 その他

(1) 盛岡市まちづくり市民討議会実行委員会規約

盛岡市まちづくり市民討議会実行委員会規約

(名称)

第1条 この会は、盛岡市まちづくり市民討議会実行委員会（以下「実行委員会」という。）という。

(目的)

第2条 実行委員会は、盛岡市の「新しい盛岡市総合計画」及び「公共施設保有の最適化と長寿命化の計画」の策定に際して、市民意見を把握するため、市民討議会を実施するとともに、市民討議会を通じ、市政に対する市民意識の高揚を図ることを目的とする。

(所掌事項)

第3条 実行委員会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 市民討議会の実施に関すること。
- (2) 市民討議会の内容等に係る報告書の取りまとめに関すること。
- (3) その他市民討議会の実施に関し必要と認められること。

(組織)

第4条 実行委員会は、委員20人以内をもって組織し、委員は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 一般社団法人盛岡青年会議所会員
- (2) 盛岡市職員
- (3) 前2号に掲げる者のほか実行委員会が特に必要と認める者

(役員)

第5条 実行委員会に次の役員を置く。

- (1) 委員長 1人
- (2) 副委員長 1人
- (3) 監事 2人

2 委員長は、委員の互選とする。

3 副委員長及び監事は、委員長が指名する。

(役員職務)

第6条 委員長は、実行委員会を代表し、会務を総理する。

2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

3 監事は、実行委員会の会計を監査する。

(任期等)

第7条 役員及び委員の任期は、平成26年3月31日までとする。

(部会)

第8条 委員会に次の部会を置く。

- (1) 総合計画部会
- (2) 公共施設部会

2 部会に属すべき委員は、委員長が指名する。

3 部会に部会長を置き、部会に属する委員の互選とする。

4 部会長は、部会の事務を掌理する。

(会議)

第9条 実行委員会の会議は、委員長が招集する。

2 実行委員会は、必要に応じて、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(事務局)

第10条 実行委員会の事務を処理するため、盛岡市に事務局を置く。

2 事務局に事務局長その他必要な職員を置く。

3 委員長は、その権限に属する一部の事務を事務局長に専決させることができる。

(経費)

第11条 実行委員会の経費は、盛岡市が負担する負担金及びその他の収入をもって充てる。

(会計年度)

第12条 実行委員会の会計は、実行委員会の設立時から始まり、平成25年12月31日をもって終わるものとする。

(雑則)

第13条 この規定に定めるもののほか、実行委員会の運営等に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この規定は、平成25年6月21日から施行する。

(2) 盛岡市まちづくり市民討議会実行委員会委員

	団体名	役職名	委員	備考
1	盛岡青年会議所	理事長	浦田 学	委員長
2	盛岡青年会議所	専務理事	岩渕 健二	(公共施設部会)
3	盛岡青年会議所	地域未来室 室長	佐藤 吉和	監事(総合計画部会長)
4	盛岡青年会議所	担い手育成室 室長	高橋 一仁	副委員長(公共施設部会長)
5	盛岡青年会議所	総務広報委員会 委員長	吉田 光晴	(公共施設部会)
6	盛岡青年会議所	地域交流委員会 幹事	田畑佳奈子	(総合計画部会)
7	盛岡青年会議所	地域のつながり創造委員会 幹事	荒木 政友	(総合計画部会)
8	盛岡青年会議所	未来の担い手育成委員会 委員	八木橋美紀	(総合計画部会)
9	盛岡青年会議所	総務広報委員会 委員	藤田 竜一	(公共施設部会)
10	盛岡市	財政部資産管理監	川端 順二	監事
11	盛岡市	市長公室企画調整課 計画係長	藤澤 法輝	(総合計画部会)
12	盛岡市	市長公室企画調整課 主任	高畑 扶実	(総合計画部会)
13	盛岡市	財政部資産管理活用事務局 副主幹	壽 俊行	(公共施設部会)
14	盛岡市	財政部資産管理活用事務局 主任	上森 貞行	(公共施設部会)
	事務局長	市長公室 企画調整課長	古舘 和好	事務局長
	事務局	盛岡市市長公室企画調整課・財政部資産管理活用事務局		





大新小の校舎を視察する市民討議会の参加者（12日）

盛岡市は、2015年度からの新総合計画と市保有施設の最適化・長寿命化の計画について、策定過程から市民参加を募る新たな手法として「まちづくり市民討議会」を採用している。無作為抽出した3千人から公募し、応募者から計画分野のそれぞれ約40人を選抜。老若男女が参加し、今月各討議会が視察や情報提供を踏まえて話し合いをし、意見を集約。市が計画や施策に反映させる。

まちの未来 市民が語る 盛岡市が討議会設置

討議会は実行委員会（委員長・浦田孝盛岡青年会議所理事長）が立ち上げられ、6月か

ら準備が進められた。テーマは総合計画が「未来のまわりおかミィーディング」、市保有施設の最適化・長寿命化が「考えよう！みんなのタテモノの未来」それぞれ今月2日間の討議会がある。

市保有施設に関しては12日、第1回討議会が開かれた。浦田委員長は開会あいさつで「討議会は耳慣れないと思っし、歴史が浅い。盛岡市として初めての取り組みで、まちづくりに関して市民参加を得て一緒に考えようと準備してきた。自分も市のごとで知らないことが多い。討議会が盛岡の未来、豊かさにつながることを期待する」と述べた。

同日は38人が参加し、市立大新小や厨川地区活動センター、青山2・3丁目アパートを視察した。その後、公共施設の視察を通じ

総計や公共施設の最適化

て感じたことを発表し合ったほか、公共施設の老朽化問題に対する今後の取り組みについて情報提供があり、さらに討議を重ねた。

大新小では佐々木健校長の案内で1973年開校以来の校舎や数年後に建造された別の校舎を紹介された。壁の剝離、雨

漏り、冬季の凍結など老朽化した建物の現状と対応策が説明された。参加者は災害時の指定避難所として毛布やアルファ米の備蓄実態なども知った。

参加した盛岡大学4年の藤田沙織さん(22)は「今まで討論などに参加する機会がなかった。盛岡の未来、建物の未来についてがテーマだったので、就職も盛岡でしたいと考えているので社会人として参加したいと思った」と意欲的だった。

次回は27日で地域で利用・全市的に利用する考え。市は総合計画策定に向けてアンケート、まちづくりへの提言・アイデア・提案の募集、市民意見交換会なども実施。14年度には市民意見募集と説明会も行われ、策定の進捗よく状況を市ホームページなどで市民に情報発信する考え。

る公共施設の今後について情報提供を受け、話し合いをする。総合計画の討議会については14日に1回目が開かれる。中心市街地の活性化、子育てしやすいまち・子育てしなくなるまちについて識者から情報提供があり、話し合いが行われる。

民意映す総合計画に

盛岡・市民
討議会 40人が意見交換

2015年度を初年度とする盛岡市次期総合計画策定に向け、市が新たな市民参画の場として設けた「まちづくり市民討議会」が14日、同市中ノ橋通のプラザおでつで開かれた。無作為抽出した市民からメンバーを選び、サイレントマジョリティー（物言わぬ多数派）の考えを吸い上げる狙いがある。

「未来のもりおかミーディング」と題し、老若男女のメンバー40人が▽中心市街地をもっと元気にするためには▽子育てしやすいまち、子育てしたくなるまちとはーの2テーマを話し合った。

数人のグループで意見交換後、気に入った考えに投票して意見集約した。中心市街地では「個人の商店が減っている」「交通の便が悪い」「大通は居酒屋だらけ」など率直な意見が出された。

最終回の26日は、高齢者が生き生きと暮らせるまち、盛岡の魅力発信をテーマに話し合った。討議結果は報告書にまとめ、来年12月に策定する総合計画に反映させる。

市民討議会は、市政に意見を述べる機会が



中心市街地の課題について意見を出し合う市民討議会のメンバー

少ない住民の考えを取り入れる手法として近年、全国的に広がっている。

盛岡では無作為抽出

した3千人の中から希望者を募り、抽選でメンバーを決めた。総合計画のほか、公共施設保有の最適化と長寿命化の計画策定でも討議会を開催している。

市は託児所を設け、参加しやすい環境づくりにも力を入れた。市企画調整課の藤沢法輝係長は「これまで（市政に）意見を述べたことのない初顔が多く、多彩な考えが出るので」と期待する。

(岩手日報 平成25年10月16日より転載)

(4) 案内チラシ

★ 盛岡青年会議所と盛岡市とが協力して運営します。

★ 参加者には2日で6,000円の謝礼をお支払いします。

★ 討議した結果を報告書にまとめ、市に提出します。

【日時・場所】

1
回
目

平成
25年 10/14(月・祝)

10:00(開会) ▶ 16:30(閉会)

プラザおでつて

盛岡市中ノ橋通一丁目1-10

2
回
目

平成
25年 10/26(土)

10:00(開会) ▶ 16:30(閉会)

盛岡市アイスアリーナ

盛岡市本宮五丁目4-1

未来のもりおか
ミーティング

創りだそう 私たちのまち

【盛岡市まちづくり市民討議会】

あなたの声が
未来のもりおか
を創る!



盛岡市広報キャラクター「モリイ」

Q. 市民討議会って何？

市民討議会とは、世代や職業を超えて様々な市民の方に集まっていただき、盛岡のまちづくりなどについて話し合っていたり市民参加の場です。

Q. どういう人が参加できるの？

市内にお住まいの20歳以上の方の中から無作為に3,000人を選出させていただきます。会議の参加依頼のご案内状をお送りしています。

Q. どんなことをするの？

「子育てしやすいまち」や「お年寄りが元気なまち」、「にぎわいのあるまち」などのテーマで課題や解決策について話し合います。

主催：盛岡市まちづくり市民討議会実行委員会(盛岡青年会議所・盛岡市)

【お問い合わせ】盛岡市役所 市長公室企画調整課 〒020-8530 盛岡市内丸12番2号
TEL: 019-651-4111(内線3815・3818) FAX: 019-622-6211
電子メールアドレス: kikaku@city.morioka.iwate.jp

盛岡市まちづくり市民討議会
『未来のもりおかミーティング』
～創りだそう 私たちのまち～
市民提言書・実施報告書

2013年12月発行

編集・発行 盛岡市まちづくり市民討議会実行委員会
事務局 〒020-8530 岩手県盛岡市内丸 12-2 盛岡市役所内

白ページ